

武蔵野市第六期長期計画・調整計画策定委員会

圏域別意見交換会（吉祥寺）

■日時 令和5年3月17日（金） 午後7時～午後9時10分

■場所 商工会館4階 市民会議室

出席委員：渡邊委員長、岡部副委員長、木下委員、久留委員、古賀委員、鈴木委員、
中村委員、箕輪委員、吉田委員、伊藤委員、恩田委員

欠席委員：なし

事務局が、2月10日（金）に開催を予定していた吉祥寺地区における圏域別意見交換会が、当日、大雪警報の発令に伴い急遽中止となり、本日はその代替開催であることを説明した。その後、討議要綱、意見交換会の進行、意見の取扱い、今後のスケジュールについて説明した。

続いて委員長が挨拶し、策定委員会委員が自己紹介した後、意見交換を行った。

【市民A】 今、いろいろな自治体で学校給食の無償化が実現している。食は健康に関わることだ。学校給食は社会で保障しているものではないか。武蔵野市は、子どもの医療費と保育園給食の無償化ができている。令和10年までの期間で武蔵野市も学校給食無償化について考えてほしい。

【A委員】 討議要綱には、学校給食の無償化について書いていない。給食は、子どもたちの食、健康に関わる。また、無償化になれば、子どもたちがきちんと食べられる状況になるだけでなく、給食費を集めるなどの教員の事務作業を減らすことができる。子どもと教員の両面から、私も無償化は望ましいと思っている。

【委員長】 給食の無償化は、策定委員会ではまだ議論していないが、市議会議員との意見交換会でも意見があった。予算がない中では、やりますとも言えないところがあるが、メリットとデメリットを踏まえて議論する。

【市民A】 給食担当の教員は食数計算もする。コロナで行事が減る中、給食は大変だった。学校給食を全員無償化すれば、誰は就学援助をもらっているから給食費を払っていないということも関係なくなる。自分のうちは給食費を払っていないから給食のおかわりをしないという子どもがいた。

【副委員長】 給食をおかわりしないというのは、就学援助によって無償化されている子どもが引け目を感じて、そういうアクションに出るということか。

【市民A】 武蔵野市とは限定しないが、今までの教員経験の中でそういうことがあった。給食が嫌いではなさそうなのに、おかわりを全然しないことに気がついて、子どもに聞いたところ、保護者が「あなたは給食費を払っていないから、おかわりをしてはいけない」と言うので、子どももそう思っていたようだ。「そんなこと、考える必要ないんだよ」と言っても、保護者は「私たちはそうしている」と言う。また、中学生ぐらいになると、自分のうちは給食費を払っていないくて、友達のうちは払っているということを知って、自分で遠慮する。全員が無償化となることと、基準に合致した家庭だけ給食費を払わなくていいこととは大きく違う。

【市民B】 市民の力で緑を守り育てる取組みを進める、ということが討議要綱に多く書かれているが、緑とか環境に関する取組みがあること自体を知る機会が少ない。取組みの推進も重要だが、取組みがあること自体の広報を進めるということも書いてはどうか。

【副委員長】 武蔵野市は、第一期長期計画から緑や環境に関する取組みに力を入れてきたが、盤石の看板政策だからということで、広報をあまりしてこなかったところがある。意見にはっとさせられた。ただ、市民意識調査では、緑・環境分野については他の施策に比べて満足度が断トツだ。保全活動団体も多い。

【市民C】 私は、生態系豊かな雑木林を保全する活動に関わっている。緑のボランティア団体が数十あって、花壇や公園の手入れをしている。年に1回、団体の人たちが集まって意見交換をするほか、市からの情報をいただくなどしている。

【副委員長】 地域の人たちが一生懸命参加することで、環境意識を高めるだけでなく、人とのつながりができる。こういう取組みをしているところにぜひ参加してほしい。

【B委員】 人間の行動を、AIDMA というマーケティングの専門用語で説明することがある。AIDMA は、目にとまって、興味を示し、行為の心を決め、気に入ったものを買うという行動の英単語の頭文字を取ったものである。特に意識も活動もしていないし施策に関心もないという方は、新宿から中央線に乗って、武蔵野市に入ったところで緑が急に多くなるということに気づかない。武蔵野市にとっての緑と環境という、今後さらに重要になるテーマに関心がある人にも、ない人にも、情報をどう届けていくのか、行政全体で考えていかなくてはならない。今回の討議要綱の行財政分野では、デジタルを使って、新しい広

報の仕方に関して挑戦すると書いた。

もう一つ、私は、武蔵野市民に対して情報を発信するだけでなく、武蔵野市民以外の人にも情報発信することが重要だと考えている。武蔵野市の住民という定義には、住んでいる人だけでなく、このまちに来てくださる方、このまちで働く方も含まれる。したがって、住民だけでなく、市の外の人たちに対しても武蔵野市のいいところをアピールする。それが市民の誇りとかシビックプライドにつながり、武蔵野市がいいまちになる原動力になる。

【市民D】 子育てをされていて温暖化が進んでいることを実感する。学校や保育の現場は、熱中症対策のいろいろな指数を忠実に守ると、外で活動する時間が限られる。5月から10月、11月まで暑い。5月から熱中症の子どもたちが増える。学校改築懇談会で、子どもたちが活動しやすいように緑を植えてほしい、緑地や日陰をつくってほしいとお伝えするが、緑はどうしても後回しになる。環境政策は武蔵野市の魅力の一丁目一番地である。地域の子どもたちにとって緑がどういうものであるべきかという視点を捉え直して、長期計画に入れていただきたい。

【副委員長】 私は温暖化の専門家ではないが、温暖化が進んだことと熱中症が増えたことの間に関連性はないと思う。地球規模の温暖化の話と都市部の温暖化の話は全く別の事象である。地球の平均気温は二酸化炭素や宇宙の影響で変わるが、都市部の温度上昇はそれとは全く別で、緑が減ると確実に都市部の温度は上がる。特に、アスファルトやコンクリートが熱をためるので、ヒートアイランド現象が起こる。それが熱中症を引き起こす。ただ、子どもたちには、熱中症になるから外に出て遊ぶなという制限的なことはしないで、むしろ日陰を使って遊ぶ工夫や指導をするほうがいい。学校改築の際には、お金もメンテナンスの手間もかかるが、木を増やすことは大事だと思う。

また、武蔵野市内の300～400平米の家をお持ちの方は結構木を植えるが、相続で転売されると、そこにあった木は皆、切られてしまう。みんなで木を植えよう、見た目の緑化をしようという施策も必要かもしれない。

【C委員】 学校の建て替えは、建物の環境とか教育的機能がどうしてもメインになり、緑の問題がおざなりにされる。緑の問題を忘れないようにしなければいけないと気づかされた。即効力はなくとも、壁面緑化や屋上緑化で学校敷地内の緑化率等を高めることが必要である。校庭の緑化が理想的だが、メンテナンスが大変である。学校の敷地の緑はデザインレベルで具体的に考えなければいけない。

【委員長】 私は高齢者専門だが、都市部の高齢者にも、即効性のある対策はなかなかない。公共施設等で水を無料でいつでも飲めるようにするという取組みに可能性があるという程度だ。今のまま、熱中症に関する指標を忠実に守っていたら、子どもは外に出られなくなる。これは子どもにとってよくない。暑い中に出ても熱中症にかからない対策をしつつ緑もという両方のことを同時に進めることが重要だ。長期計画で扱うべきことなのか、それとも個別計画で扱うべきかは考えなければいけないが、子どもたちが夏でも外で遊べる、あるいは様々な方が外に出られる環境をどう維持するか、策定委員会で議論する。

【市民E】 先日、吉祥寺大通り東駐輪場が売却されたが、その隣地の小さな一面が売りに出ており、その隣にあったキャバクラの建物が立ち退くことになった。面で考えれば、広い土地になるはずだった。討議要綱に書かれているように、民間と協力して面で考えた計画を立てれば、よりよいまちづくりができるのではないか。

本町コミセンの建て替えが計画されている。コミセンの跡地をどうするのかというお話を伺ったが、まだ決まっていないとのことだった。建物は一度建ったら 50 年変わらない。ここでも広い面で考えていただきたい。

私は、NEXT 吉祥寺の策定委員会を全て傍聴した。地域住民の意見は全然出ていない。まちづくりに地域住民が参加する機会をもっとつくって、地域住民の意見を取り入れる努力をしていただきたい。

イーストエリアの近鉄裏は、環境浄化が進み、おかげでようやく土地の価値が上がってきた。金銭的な問題ではなく、感覚的に土地の価値が上がっている。お寺の土地ではない民有地で、吉祥寺駅前の一等地の開発は、細切れの計画でなく、大きなビジョンを持って進めていただきたい。

【C委員】 かなり本質的で、重要なご指摘だ。私も都市基盤分野を担当して一番気にしているのが、大きなビジョンがあるのかということだ。計画の実現性を重視するなら、地域を限定して考えるほうが、具体的な答えを得やすいが、そうすると、それぞれの小さな関係を調整することだけで終わってしまう。これを都市計画とは言わない。都市計画は、大きなビジョンをどうつくるかだ。ただ、大き過ぎると、資本をどうつくるかとか、利害関係の調整という問題になって、実現性を望めない。市も、開発を予見した買収が入ることを嫌って、計画等を明かしたがない。

私は、まず、大きなビジョンを募集することを提案している。コンペティションで、専

門家やまちづくりに関心のある人が、アイデアを、ある意味で無責任に、都市の未来について夢を持って語る。そうすることで、地域に住む方が、こういうまちがあったらいいねというイメージをしやすくなる。イメージなしに住民の意向だけ酌もうとすると、どうしても目先の利便性や、自分が住む環境そのものに関心が行ってしまう。住民参加も大事だが、ビジョンなしに住民参加しても、意見が限定的になる。吉祥寺を地域ごとに、それこそイーストだ、ウエストだとゾーンを分けていること自体にも、私は疑問を持っている。

まちづくりに対する意識を持った人がワークショップに入ることはいいことだと思うし、そういう機会を増やすことも重要だ。何かをつくって、パブリックコメントをとることで市民の意見を聞いたという形についても私は疑問を持っている。コーディネーターを導入して、混乱はあるかもしれないが、自分のまちをどうするか、意見を対立させながら、様々な手法について議論と工夫をしたらいいと思う。

【市民E】 今回のこの意見交換会でも、まちづくりについて意見を言う人は少ない。まちづくりについて自分が口を出したところで何かが変わるのかと思っているからだろう。住宅地域に住んでいる方々は、環境や緑がよくなるといいとか、道路づけがどうかといったまちづくりを考えておられると思うが、吉祥寺周辺については商店や行政の人が考えればいいと思っている人が多い。でも、買い物に来るところ、生活する場が自分たちに関係ないわけがない。まちづくりに参加したいと思えるような、意欲が出るような持っていく方、市民を育てるものを市で進めていただけないか。

【委員長】 この議論は、参加や議論の方法の話と、どうしたいかという話をごっちゃになりやすい。どうしたいかという話をすると、利害関係が山ほど出て、複雑になる。みんなが参加するような舞台設定や進め方に関して、イノベーションがあり得るとしたら、どういうことができるのか。ビジョンをみんなで作るほうがいいのか、別がいいのか。いろんな形で議論したい。

【B委員】 本筋を見抜いた議論で、楽しく聞いていた。武蔵野市のまちづくりは、全国の中でも極めて進んでいる。TMO（タウンマネジメント機関）も設立されているし、行政からまちづくり事務所という形で相当な人を配置している。何より、都市計画マスタープラン 2021 は、第六期長期計画策定で都市基盤分野を担当した故・保井美樹先生が参加されていた。保井先生は、エリアマネジメントを日本で確立した第一人者だ。あの保井先生が頑張ってくつてきたものを実施していく必要がある。

ただ、だからといって吉祥寺のヨドバシ裏が理想的にできているのかというと、それも

また違う。課題だらけである。まちづくりは、一つの目線から見れば正義でも、ほかの目線で見たら不正義なことはたくさんある。それをどう住民と行政と事業者でコンセンサスをとりながら、みんなの利益を極大化できるか。その道を探る。言うは易し、行うはかたしだが、日本全国で見れば吉祥寺の手法は先端を行っていることを大前提に、行政も、まちづくりに参加する方たちも、走りながら悩み続け、考えながら成長していくしかない。まちづくりにとどまらず、地域課題は、より複雑化、不安定化して、曖昧になる。行政も進化していかなくてはいけない。その進化のためのビジョンを長期計画・調整計画で立てる。

この議論に関することは、討議要綱 43 ページを見ていただきたい。横串を刺している行財政分野で書いているので、まちに関することとは読まれなかったかもしれない。基本施策1の2)に「市民参加の機会を広げるため、ICTを活用した手法を検討」して、テクノロジーを使うという方針を書いた。また、3)で「市職員が地域に出向く機会を創出し、職員の対話力・調整力の向上を図り、市民との信頼関係及び相互理解を深めることで、地域との連携・協働を推進する」と書いた。行政へデジタル化を進めて、業務効率を上げ、そこでできた時間を使って現場に出ること提案している。逆に、現場に出ていくためにも、デジタルを推進する。

さらに、45 ページの基本施策4の8)「新たなニーズに応える組織のあり方の検討」で「事務分掌ではおさまらない分野横断的な事業を進めるための組織のあり方や運営方針、人材育成について議論する」と書いた。まちの課題を解決するとき、「これは建設の話です」「これは衛生の話です」「消防の話です」と、たらい回しされがちだが、まちは公益性ある器なので、一つの部署では完結しない。国は、横断的に何かをするときはプロジェクトチームをつかって、内閣府、内閣官房に多省庁から集まって横串を刺した施策を展開する。11 平方キロメートルしかない武蔵野市に、国の手法がふさわしいのかわからないが、横断的に物事を解決するための設計を考えるのが、調整計画だ。調整計画で打てる布石として方向性を書いて、だめだったら七長でしっかりとまたさらなる打ち込み方を考える。

【市民F】 将来人口推計について。2052年に16万人と、右肩上がりの推計をしている。日本の人口は、2050年に25%減るとされているが、武蔵野市だけなぜこんなに人口が増えるのか。人口推計の根拠は何か。また、この人口推計に基づいてインフラを整備してい

ったら、推計どおりに人口が増えなかったときに過大なインフラを抱えることになる。インフラの維持には住民の税金を使う。この人口推計を下回ったときはどうするのか。

都市基盤分野の基本施策3の3)「交通環境の改善に向けた自転車駐車場の検討」について。「駅中心エリアから一定程度離れた場所に配置する」とあるが、電車で都内の会社まで通い、寝に帰ってくる住民にとって、自転車駐輪場が駅から離れると、とても不便になる。駅近にあって便利な駐輪場を売却し、外周部に配置することが本当に住民ニーズに合っているのか。住民への周知と議論が不足しているのではないか。こういう大方針を知っている住民がどれだけいるのか。

行財政分野の基本施策1の1)「自治基本条例に基づく市政運営」について。B委員は、どこかの会合で、「市民等との熟議・熟慮」という用語を入れたのはご自身だとかご発言され、住民投票条例制定に向け、じっくり議論して、不要であれば自治基本条例第19条の削除も視野に入れた議論をしてもいいのではないかとおっしゃったとお聞きしたが、このご発言は事実か。

そもそも住民投票制度がなぜ必要なのか、私はよくわからない。武蔵野市に原発や米軍基地の問題はない。一昨年だかに物すごく混乱したが、制度が必要かどうかというところから議論し直すべきではないか。住民投票制度ありきで議論を進めてしまってよいのか。住民への周知、コンセンサスがとれているのか。

【B委員】 まず、人口推計に関しては、国立社会保障・人口問題研究所で確立されている手法を使い、中立性に基づいてシナリオを立てた。人口を増やそうという意図も、抑制をしようという意図もない。なぜこういう形になるのかというと、日本国内は閉鎖モデルだが、武蔵野市は、市内での自然増減に加えて、転出入という社会増減があるためである。実際、転入のトレンドは確認されている。土地に関する開発余地も残っている。今の中立モデルを否定する理由はない。

インフラが過剰になることのリスクはなるべく削減しなければいけない。だから、長期計画をつくったときの前提が変わった場合は計画を見直して、一定の柔軟性をとる。ただ、武蔵野市は人口密度が高く、市街化調整区域があるわけではない。とすると、過剰なインフラが財政負担に重くのしかかってくることは考えづらい。しかし、危なくなったときにはすぐでも公共施設の整備等に関する行政計画を見直す。

自治基本条例に関しては、少し誤解されているようだ。「熟議・熟慮を重ね」というのは、住民投票条例を絶対に制定しなくてははいけないとか、それがありきと言っているわけ

ではない。ただ、あの混乱の際、私も市民として「何でこんなに急に出てきているの？大事なことを決めるのに、みんなちゃんと理解しているの？」と思ったので、議論しようということを経験的な方針とした。

自治基本条例を廃止すべきだという話をするつもりは毛頭ない。自治基本条例がまずあって、第 19 条に住民投票が書かれているが、その詳細に関しては別個条例で定める云々と書かれている。その別個条例ができていないから、どういう条例が一番いいのか、熟議・熟慮を重ねる。結果、自治基本条例と矛盾する問題があるということなら、そのときは自治基本条例そのものの見直しまでさかのぼって検討することになるのではないかということだ。自治基本条例をここで改定すべきという趣旨の発言はしていない。

【委員長】 自治基本条例は、計画策定における前提条件だ。自治基本条例に基づいて住民投票条例の制定に向けた検討を進めるが、それには熟議・熟慮を重ねる。熟議・熟慮を重ねた結果どうなるのかは、その後の話だ。熟議・熟慮を重ねないうちに、我々から、こうなるということとは言えない。

人口推計に関しては、推計が現実と 1%ずれた場合は見直すというルールをかけている。当然ながら、小さいレベルの推計は、大きな変化があると容易に変わる。武蔵境では、小学校を減らした後に人口が増えて、インフラが過小になった。推計は非常に難しい。

【C委員】 通勤で自転車を使う方からすれば、駅に一番近いのが一番いいに決まっているが、駅に最も近い、例えば 100 メートル半径に駐輪場を設置するとすると、駅周辺はほとんど駐輪場ということになる。そこから 500 メートル離れると、距離は 5 倍になるが、駐輪場を設置できる面積は 25 倍になる。目的施設に近いということだけで駐輪場を設置すると、ほかの都市施設と競合してしまい、高度な土地利用はできなくなる。

一方、自転車通勤の方は別として、まちの中を散策していただくことが、まちのにぎわいづくりには必要である。また、駅に近づけば近づくほど、自転車と歩行者、あるいは自転車と車というコンフリクトが強くなる。そういうことを避けるためにも、若干遠隔に設置することが妥当だというのが市の考え方であり、これは私も個人的には賛同している。駅から若干離れたところに散在する市の未利用地をうまく使う。当初は必要駐輪台数が確保できず、放置自転車が多かったが、最近は必要数をほぼ満たしている。討議要綱に書かれていることは妥当だというのが私の個人的見解だ。

【委員長】 考え方は今の C 委員がおっしゃったとおりだが、市民への広報や議論、周知の徹底については、まだ策定委員会で議論していないところもある。ご意見を承り、ここ

で一旦引き取るということにさせていただきたい。

【市民F】 通勤・通学をする住民からすると、今のC委員のお考えには反対だ。放置自転車が増加するといった問題が起きて、いい結果にならない。

【B委員】 住民のコンセンサスはとれているのかというご質問について。討議要綱は、調整計画でいろいろなものの方向性を示す前に、市民の皆さんに広く意見を聞きコンセンサスをつくるためのものである。討議要綱はあくまでもたたき案とご理解いただきたい。

【市民G】 2019年の意見交換会のときに、私がアニマルウェルフェアのことを入れてほしいとお話ししたところ、動物愛護のことと、「外来生物による感染症の拡大や動物虐待など、生活環境の変化に伴う新たな問題を的確に捉え、関係機関と連携し、被害の回避・軽減を図ることで良好な生活環境を確保する」という一文を入れていただいた。

先日の関係団体意見交換会では、17ページの(2)「新型コロナウイルス感染症の影響への取組み」の「主な感染症対策」に、人獣共通感染症に対する対策を入れていただきたいとお願いした。そこにワンヘルスという考え方もぜひ入れていただきたい。ワンヘルスとは、人間と動物と生態系の健康を一体として捉える考え方だ。動物由来の感染症の発生を防いで、医療とか獣医療だけでなく、政治、経済、ビジネスなど各分野が連携する。人が感染症にかからないために、ペットや家畜が健康でいられるよう、感染源である野生動物の生息地を守る。生態系の保護は、SDGsの目標の多くにも関わる。

武蔵野市は2050年にゼロカーボンシティを目指すのであれば、「多摩地域の森林を健全に育成」、「森林資源の利活用」だけではなく、人を感染症から守るという視点もぜひ入れていただきたい。コロナのパンデミックで世界的に甚大な被害をこうむった。パンデミックの予防に対する費用は、被害総額の約2%にすぎないと言われている。

【D委員】 アニマルウェルフェア（動物福祉）については、六長のときも議論させていただき、動物愛護と生態系の保持に関連する部分を書いた。

感染症法は、基本的には人の感染に対する法体系である。動物由来の感染症には、例えば鳥インフルエンザがあるが、鳥インフルにかかった鳥は今、全部殺処分することになっている。これは、アニマルライツの考え方から言うと、否定される行為だ。どこから感染したか、何が由来かを突き詰めると、どう処分するのか、もしくはどう生かすのかということになる。医学とも絡む非常に難しい問題である。様々な議論がある中で、討議要綱には、動物愛護に関して、共通して納得していただけるのではないかというところを書いた。

【委員長】 人獣共通感染症は重要な課題だが、武蔵野市の行政計画を策定するにあたり、家畜の問題はあまり出てこない。

【市民G】 前回入れていただいたことには感謝している。それとは別に、もっと広い観点で、動物のこととしてではなく、人のこととして、人獣共通感染症を防ぐために、ワンヘルスという考え方を入れていただきたい。ワンヘルスは動物愛護ではない。

【委員長】 人間と獣の距離が近くなると、まさにワンヘルスという考え方が出てくる。ただ、我々は計画策定において、特に家畜とかが少ないこの武蔵野市で、具体的にどう書き込めるか、まだ想像がつかない。計画に「ワンヘルス」と書いたとして、それが具体的な政策にひもづかなければ、「武蔵野市はおもしろいことを書いたな」の一言で終わってしまう。それでは意味がない。ウイルスは人だろうが獣だろうが関係なく体内に侵入し、感染症を引き起こす。その感染症から人と獣の両方を守らなければいけない。そのときに武蔵野市の環境分野の施策として何ができるのか、アイデアをぜひお寄せいただきたい。

【市民G】 今回コロナで私たちは甚大な被害を受けたし、市民生活にも大きな影響があった。それは動物由来の感染症で、家畜がいないからという問題ではない。

【委員長】 だからこそ、市の行政として何ができるのか。国レベル、都レベルでしなければいけないこととまざると、うまくいかなくなる。

【市民C】 先日、文科省から「通常学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方に関する検討会議」の報告書が出た。学校の強化ということなので、私は先生が増えたり、少人数学級をしたりというのが入っているのかと思ったが、概要版を読んだ限りでは、高等学校のみ教員定数について触れていた。このまま進めると、先生のブラック度が上がり、先生にもよくないし、子どもたちにとってもよくない。

以前、武蔵野市で小中一貫教育を進めるかどうかという議論があり、教育長が、子どもが減るのはもうわかっているのに、統廃合か、義務教育学校という選択をするのか、検討しないといけないと言っていた。その検討に、学校の校舎はあったが、少人数学級については入っていなかった。不登校、いじめ、新しい教育指導要領になってからの個別最適化の学びの保障、あらゆることに少人数学級は効果がある。ただ、これは武蔵野市だけで進めるのはとても難しいが、どうにかしないと、日本の公教育が崩壊する。武蔵野市の施策としてできるかできないかということだけではなくて、都や国に働きかけることも武蔵野市で検討してほしい。

【A委員】 様々なお子さんがいらっしゃる中では、確かに少人数学級が望ましい部分があるが、武蔵野市で何ができるかというところについて、今すぐここで答えるのは難しい。持ち帰り、どういったことが考え得るのか考えたい。

就学前のお子さんたちの保育に関する子どもと保育者の人数の検討を始めたところがある。現状、5歳児が30対1だが、それがもう少し改善されて、今度小学校の改善につながると思う。保育士や幼稚園教諭の数がいる中で育った子どもたちが小学校に上がる。それをどう踏まえるか、個人的には期待している。

【委員長】 いきなり少人数学級の導入は難しいとしても、障害のある子どもが普通級に通うときに、先生がしっかり見るために、ほかの先生の負担を下げるということもある。市ができる様々なことを考えたい。

【市民H】 今日参加して、この参加人数が象徴的であり、残念だとも思った。市側の方が大勢いらして、市民が少ない。ここに根源的な問題がある。地方分権化は、市民に行政への参加を期待しているが、それは市民のレベルが高くないとできない話だ。三鷹市では、Machikoe（マチコエ）運動、住民協議会の設置など苦勞をしておられるが、武蔵野市がそういう努力をしているところを私は見たことがない。

【委員長】 参加人数については、今のこの時間帯というのも理由の一つになっている。武蔵境での意見交換会は日曜の午前中に開催し、数十名の方がいらした。参加しやすい形にはいろいろなパターンがあり得るので、3駅圏を午前中、午後、夜に分け、かつ、今回オンラインという形も用意した。参加しやすいように、いろいろ努力しているが、果たしてどこまで市民参加ができていくのかについては幾つか課題があると考えている。

【E委員】 住民参加をどう促していくかに関しては、どの意見交換会でも必ず出る意見だと思う。なぜ市民の方たちが参加なさらないかということをおおきく分けると、目の前の生活のことで余裕がなくて考えられない、もしくは今の市政に満足している、あるいは関心はあるが時間帯が合わなくて意見が言えない状況にあるということではないか。余裕がなくても、意見がある方や時間帯が合わなくて出られない方たちにどうコミットしていただけるのか考えなければいけないと思った。委員会で議論したい。

【委員長】 三鷹市の運動等、我々も勉強の足りない部分がある。インプットしながら、さらに議論を深めたい。

【市民H】 たくさんの市民に参加させるには、その人たちの意識のレベルを上げなければ

ばいけない。今日ここに来ているのは、よくわかっている方ばかりだ。地方分権化を根源的に考える必要がある。市民に行政参加を要求するのは大変なことだということを前提に考えてほしい。

【委員長】 2「基本的な考え方」（4ページ）にあるとおり、我々策定委員は「市民自治」の計画をつくるという原理を継承し、武蔵野市の市民自治による民主主義を前提とした仕組みを体現している。逆に、そうでなければ、我々のような、ある程度の知見はあるものの計画策定のプロではない人間たちを呼んでつくる意味がない。また、こういう対話をする意味もない。我々策定委員は、市民自治というものの自体を疑うことはしていない。

【市民B】 都市基盤分野の基本施策1の2）「魅力的な景観の保全と展開」、37ページの右側に「景観を構成する重要な要素である道路、公園、緑地、公共施設等の整備について」とあるが、この中に「広告」という言葉があってもよいのではないか。中央線の吉祥寺駅を出たところ、まちの顔でもある吉祥寺イーストエリアの一番の表通りにふさわしくない広告が進出している。個人的にはイーストエリアのアンダーグラウンド感は嫌いではないが、それがまちの表まで進出しているのは、都市のイメージ形成ということに関して問題だと思う。

【市民F】 住民参加というレベルの高い話もいいが、もっと生活に密着したところに視線を下げていただきたい。昨年末、武蔵野市内で指定ごみ袋がなくなり、非常に不便な思いをした。こういう基礎的な住民サービスをしっかりやってほしい。

また、今ある駐輪場を無理して動かさないでほしい。ベッドタウン的にここに住んで、市政にも関心がないという人は結構いる。

松下市長になってから、ペットボトルの回収が隔週化した。邑上市長ときは毎週回収があったが、今はペットボトルと缶がたまって困っている。基礎的な住民サービス、ごみ等についてしっかり見つめ直してほしい。

【市民E】 武蔵野市の文化財の保護をしっかりといただきたい。安養寺に吉祥寺村開村当時に検地した石の甲辛塔があるが、それが今、360～370年たって、剥がれ落ちてボロボロになっている。なくなってしまったら修復もできない。原形をとどめているうちに何とか保護してほしい。安養寺所有のものに市が予算を出すのは難しいかもしれないが、武

蔵野市の文化財として保護してほしい。

【市民C】 武蔵野市は、コミュニティ構想から始まった市民自治で、そのとき市民参加の権利が生まれた。それが今度は市レベルになって、自治基本条例となり、権利が保障された。これはうれしいことだし、大事なことだ。我々はこの権利を手放してはいけない。これを行使できるのは成熟した市民というのが条件で、松下圭一さんがそう考えたのだと思う。ただ、コミセンで本当に成熟した市民による自治が行われているかという点、若干疑わしいところがある。行政には、コミュニティをエンパワーし、市民に力をつけさせるということをお願いしたい。

【市民A】 平和・文化・市民生活分野の基本施策6の2)「市民の誰もがスポーツを楽しめる環境の整備」に「屋外プールの廃止を支持する市民アンケートの結果も考慮し、全天候型の屋内プールの充実を検討する」とあるが、策定委員会を傍聴していたら、子どもの意見はファミリーで来ている人からとったという説明があった。市民プールは、小学生同士が自転車で行って、安全で安心して遊べる施設だ。アンケートはスポーツという視点だけになっていて、遊びに来る子たちの意見を聞いていなかったのではないかな。

【市民D】 私も、市民プールの話のとき、サイレントマジョリティーの意見をどう吸い上げたらいいいのかということに課題を感じた。データを手厚く集める必要がある。中学校のプールの改築についても、データが足りないと思った。武蔵野市には、子どもが活動するときの気温とか熱中症の指数に関するデータがない。小中学校の養護教諭が個人的につけているだけだ。データがあれば、市民プールや学校プールを屋外につくっても、熱中症指数に沿ったらほとんど運営できないという結論が出る。基本的なデータには何が必要なのかという議論をして、データ整備にある程度の予算をつけるなどすれば、サイレントマジョリティーが意見を出さなくても、合理的に決まっていく仕組みができるのではないかな。

【市民G】 動物由来の感染症は全体の約6割で、新興感染症の75%が動物由来だ。先ほど、武蔵野市は家畜がないというお話だったが、野生動物が身近に庭に出る。去年9月、獣医師で野生動物に詳しい先生に身近な野生動物に関する感染症のお話をさせていただくイベントを開催したところ、市民は関心を持って聞いてくださった。動物のことと人のことを分けて考えるのは非常に危険だ。

2016年に福岡県でワンヘルスの国際会議が開かれて、ワンヘルス推進宣言を出している。WWF（世界自然保護基金）も2021年にワンヘルス宣言を出しており、世界的な流れになっている。

ゼロカーボンシティを掲げる自治体は、次々と宣言している。武蔵野市も「2050年ゼロカーボンシティ」を目指しているのので、ぜひ宣言をするくらいのもを入れていただきたい。

【C委員】 景観の要素の中に広告物を入れるという件は非常に重要な指摘だ。景観の構成要素に広告物は必ず入っているし、景観条例でも、広告物について、面積や使う色を制限し、公序良俗に反する内容を規制している。検討する余地はあると思う。

【副委員長】 ごみ袋の問題は、各方面からよく聞く。2週間に1回のごみ収集に関して、ひとり暮らしの人たちには相当な不平不満がある。しかし、そういう意見は上がってこないということを考えていかなければいけない。

人口推計で、日本の人口は減少しているのに、なぜ武蔵野市は増えるのかという意見は毎回出るが、日本の人口と武蔵野市の人口は全く関係ない。武蔵野市は住民票を移すことができるが、日本は厳しい移民政策をしいており、単純に出生率と死亡率だけで決まる。武蔵野市も、住民票を誰も移してはいけなくなったら確実に人口は減る。武蔵野市の人気が高まって、相続で土地が売られたりした跡地がマンションになれば、人口は一気に増える。人口の 이슈は少子高齢化とは無関係だが、そういうところがわかるように討議要綱をつくるべきだった。

【E委員】 武蔵野市の文化財に指定されているもの、今後指定のための手続をとらなければいけないものについて、私は十分に把握していなかった。安養寺は文化財に入っており、今後、保護していく可能性は十分あり得る。松露庵については、討議要綱にあるとおり、市で十分討議されている。予算の問題と、建築的な側面からの検討が進んでいる。

【C委員】 文化財については、教育委員会が担当だと思う。修復不可能な状態になっていないかどうかの一斉点検をお願いしてもいいのではないかな。

【委員長】 文化財の保護に関しては、最近ではデジタル化も進み、様々な可能性がある。ただ、我々はまだ全く議論してないので、今いただいた問題提起を踏まえて、調整計画で

何ができるのか、社会教育の面からということになるのかについて考えたい。

【E委員】 市民のエンパワーについて、自治体の働きかけがあるべきだということに関しては、個人的には全く同意見だ。ただ、具体的方策はあるのか。

【市民C】 私も特に考えがあるわけではないが、市民のエンパワーがなければ、自治基本条例も働かないし、コミュニティ構想も構想で終わってしまう。

【市民D】 私が以前住んでいた大阪市西区は、お父さんたちが、野球大会に出るということの延長で自治に関わっていた。楽しむことを通して男性たちのコミュニティが確立しており、地域を引っ張っているという感じだった。参考にしてほしい。

【委員長】 「しがらみ」をきっかけに巻き込まれていくというのは、市民参加によくあるが、注意すべきなのは、「成熟した市民」という条件である。それは理想ではあるが、成熟しないと市民参加できないと言われたら、私も市民参加できなくなる。市民参加を通して市民が成熟すると同時に、市政や民主主義が動く。これを政治学では未完のプロジェクトという。絶対に完成はしないが、よりよくしていこうという動きそのものは肯定的に捉える。

どうすれば市民が成熟するかということよりも、市民参加を通して成熟できる機会をどう確保し続けるかのほうが重要だ。そうしないと、鶏と卵みたいな話で、成熟しないと市政はうまくいかない、市政がうまくいかないから成熟していないということが繰り返される。都市部では、しがらみを嫌う方々が多くなっている。面倒くさいことは嫌だ、巻き込まれたくないというところに「楽しさ」というキーワードを入れる。楽しいところから関わりをつくることを意識して、市民のエンパワーメントを考えることが重要ではないか。

【B委員】 サイレントマジョリティーを少なくするための試みはしていかななくてはいけない。また、データ整備もしていかななくてはいけない。一方で、武蔵野市は、行政計画に必要なデータをかなり蓄積している。調整計画にどう落とし込むかについて考えたい。

また、根本的に物事の解決策を見ることも重要だ。行財政分野の基本施策2の2)で『市民意識調査』の実施手法等の拡充を検討する」と書いた。2年に1回のアンケート調査で皆さんの意識をとっているとするのは、さすがに時代の変化に遅れをとっているし、コストもかかる。今回『市政アンケート』については、あり方も含めて再考する」と書いた。紙のアンケートを少なくして、デジタルに置きかえる。そのかわり、調査頻度を上

げるという考え方で、市民の意見を吸い上げることがサイレントマジョリティーの数を少なくしていくための施策になる。その際、デジタルを使えない方の意見をどう吸い上げるのかについて、次の策として考えていく必要がある。

【E委員】 プールに関しては、策定委員会でも、まだまとまっていない。ワークショップを行い、アンケートをとり、報告書が出て、方向性は一旦示されたが、この策定委員会では、これでよかったのかということが出ている。今まで集めた意見やアンケートだけをもとにこれから議論していくのか、それとも、改めてワークショップを開いたり、アンケートを行って、今まで取れなかった市民の声を取っていくのかについては、これから議論する。繰り返すが、策定委員会内でも意見は割れている。プールに関しては、拙速に結論を出しすべきものではない。ご意見をお寄せいただきたい。

【C委員】 日本中で温水プールの老朽化による建て替えが生じている。私は、十幾つの自治体の温水プール建て替え基本計画に関する報告書を集めてみた。地方都市では様々に検討されているが、武蔵野市は、単なる模式図みたいなものしか示していない。これで民意を問うのは無理だ。ほかの地方がやっているような基本計画レベルの検討をする必要がある。現段階の情報では結論を出せないというのが私の意見である。

【委員長】 プールについては、様々な意見がある。計画にどのような記載をするかも含めて議論する。

【D委員】 ワンヘルスについて。私は、ワンヘルスそのものを否定しているわけではない。問題は、感染症対策をどうするのか。また、野生動物なり感染源となり得るものをどう捉えていくのか。今回の新型コロナも、由来はまだ明らかになっていない。感染症は、幾重にも科学的な裏づけがされないと、対策がとれない。国と都道府県と市町村という行政の軸でできること、感染の程度によっても違いがあり、問題は非常に複雑に絡み合う。調整計画に盛り込むにあたり、ご意見は重要なテーマとして受けとめさせていただく。

【委員長】 ワンヘルスは、教育には有効なところがあり、我々も受けとめやすい。様々な形で今後もお提案等をいただきたい。

事務局が、意見交換会終了後の追加意見の提出方法を説明した。また、吉祥寺地区の意見交換会開催日の変更に伴い、パブリックコメントの締切が3月22日までに変更となっ

たことを案内して、圏域別意見交換会を閉じた。

以 上